

足柄上地区在宅医療・介護連携センターだより③

《一般住民対象》



30年11月30日(金) 南足柄市文化会館
映画『生きたひ』上映と講演会 長谷川ひろ子監督
参加者 150名

秋田美人の着物姿にうっとりとしても話されることは、厳しくそして優しく、夫の死を乗り越えた強さを感じました。聴衆の皆さんは、家族を見送った体験を振り返り、もう一度看取り直しができたのでないでしょうか。

ホワイエで握手をしながら笑顔で記念写真を撮ったり、サインを書いて頂き、映画のパンフレットや「生前四十九日」の本は完売しました。県、市町村の方々には、当日もサクサクとお手伝い頂きありがとうございました。

フェイスブックに今日も長谷川監督が全国行脚をしている様子が伺えます。

アンケートから：『初めての体験でした。多量の涙が出ました。施設での数多い別れに何でこんな仕事してるんだろうと自問自答していましたが今日の体験で出来る限り別れのお手伝いをしていこうと思いました。看護師さんだから「死」に慣れているでしょうと言われると力が抜けてしまいます』『私も今年息子を亡くし、悲しみに暮れる日々を送っていました。本日の映画、先生のお話をお聞きして少しは気持ちが和らぎました。旅立った息子の気持ちもわかってあげたい。そして私も残りの人生を精一杯生き、息子に会いたい』『映画と講演と自然の話の中に沢山心に残るお話でした。今日ここにきてこの話が聞けた事、今生きていけることに感謝ばかりです。家で死ぬ時を家族で看取れることの大切さ、命のつながりができる事は大事な時だと思えます。感謝の気持ちを忘れず日々、生きていきたい。命の大切さを改めて感じました』『ずっとずっと見たかった映画です。来て良かったです。開催していただいたことに心から感謝しております。沢山のことを教えて頂きました。長谷川ひろ子先生の生き様、ご主人様とご家族の生き様に感動いたしました。

《専門職対象》



30年10月12日(金) 松田町民センター
看取りを辛い仕事にしない。死を見据えた日常生活のケア エンドオブライフ協会

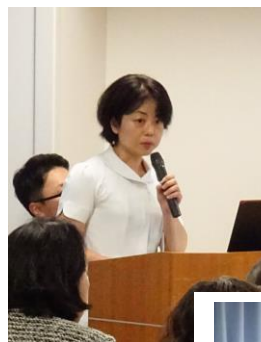
相田里香さん 参加者 61名

多職種でGWし、更にグループを移動してディスカッションを重ねていくうちに「座ってる場合じゃない」と小泉先生や飛弾会長、センター長始め、みんな立ち上がって熱心に意見を出していました。講師の先生からは「こんなにスムーズに進行するなんてびっくり！」と褒めてもらいました。優しく語り掛ける先生と熱を帯びてくる参加者、充実の2時間でした。



講義から：キーワードは、『誰かの支えになろうとする人こそ一番、支えを必要としています』でした。これは、昨年の朝来市のケアマネジメント研修でも『良い支援を受けた援助者は、利用者に良い支援が提供できる』に通じると感じいました。支援者同士の支えあい、協働が必要なことを改めて認識しました。事例検討ワークシートを基に、苦しみ(解決できる苦しみと解決できない苦しみ)と支え【将来の夢(時間存在)、支えとなる関係(関係存在)、選ぶことが出来る自由(自律存在)】についてワークしましたが、「時間がなさすぎ」、「濃い内容だけにもう少し時間が欲しい」という意見が多く、シリーズで開催したいですね。

医療・介護地域連絡会



「食べる仕組みと食事介助のポイント」

摂食嚥下認定
看護師
宮野維子さん



「食べる喜びは元気の源～高齢者が食べやすい食事とは～」
管理栄養士
堺谷礼子さん

「歯医者と呼ばぼう、その前に」
西村歯科医院
西村隆之院長



「健口なお口はブラッシングケアとトレーニング次第」
足柄歯科衛生士会
加藤明美さん



『介護保険法改正から半年、その影響、効果、課題』

上センター保健福祉課長 西田 統氏
9月14日 参加者：128名

11月9日 食べること
参加者 71名

介護事業所毎の情報交換会を開催しました

7月に第1回目を開催した訪問介護事業所と、グループホームの集まりは、3回目まで開催しました。2回目まではセンターで10人以上をぎゅうぎゅうに押し込めていましたが、上病院研修室を借りることが出来、2カ月毎の開催となり、31年度に向けて計画を練っています。12月には情報交換会の後に忘年会へと移動しました。どちらも15名程集まり、それはそれは賑やかで楽しくて介護職の方々の凄いパワーを改めて感じ、圧倒されていました（それとも相当ストレスが溜まっていた？）

グループホーム

2回目は10月に開催し、介護職の確保について：情報交換しましたインターネット、ポスティング、回覧、新聞広告等の方法で募集しても集まらないので派遣制度も利用している（派遣料は高額）。業務日誌について：外部評価の際、ICT導入を勧められるがメリット、デメリットもあり実施している事業所からケアの時間が削減されない、情報収集しやすいなどの実態など情報交換した。日常生活の過ごし方：個人対応と集団対応のレクのあり方、「レクをしなきゃいけない！」と考えてしまう。施設としてのコンセプトを確認したいです。3回目は、12月だったのでノロウイルスやインフルエンザ感染症対策についての情報交換と手洗いチェッカーによるチェックをしました。



訪問介護事業所

2回目は10月に開催し、介護職の確保や定着率を上げるための対策について情報交換しました。介護職も高齢化している中、新人の方と交換ノートを書いて自信をつけてもらう、悩みを受けとめてくれる窓口を明確にしている。5年勤続すると表彰され励みにする。3回目は12月に開催し、看取りの現状について、訪問看護と連携して終末期の訪問介護をしている事業所からの情報提供。ターミナルの研修は自施設での研修や外部研修への参加をしている。在宅での看取りは、本人、家族の覚悟とスタッフとの信頼関係が出来ることがポイントなどの意見が出され、31年度に看取りの学習を計画することになりました。



編集後記：30年度から、全国の保険者にこの在宅医療・介護連携支援センターの設置が義務付けられ、国や県の予算化も整ったのか、研修の機会も増えたように思います。皆様にはご負担に感じることもあるでしょうが、より良い連携が利用者様へのケアの向上になればというのが皆様の思いではないでしょうか。お気軽にご意見ご指導いただければ幸いです。足柄上地区在宅医療・介護連携センター：大木・堀田
電話 0465-43-8172 FAX 0465-43-8176

